

患者様とご家族の皆様へ



自治医科大学附属病院 移植外科

自治医科大学 とちぎ子ども医療センター 小児移植外科

2024年4月

患者様とご家族の皆様へ

自治医科大学では2001年5月より肝移植を開始し、2023年12月までに333例の小児生体肝移植(分割ドミノ肝移植1例含む)と6例の小児脳死肝移植を行ってきました(本邦3番目の症例数)。また、先天性門脈体循環シャント(先天性門脈欠損症含む)12例に対しては、生体肝移植を5例、シャント閉鎖を6例、経過観察を1例に行っております。2017年には成人肝移植プログラムを開始し、2022年には成人の脳死肝移植施設に認定されました。2023年12月までに64例の成人生体肝移植と1例の成人脳死肝移植を行い、施設として400例以上の肝移植の経験を有しており、日本でも有数の肝移植施設となっております。

肝移植の適応評価に関しては、急性肝不全や代謝性疾患は小児科消化器グループや小児集中治療部と、胆道閉鎖症や肝芽腫は小児外科と密に連携を取りながら診療を進めており、その他の希少疾患(新生児急性肝不全、メプルシロップ病症、メチルマロン酸血症、シトルリン血症、糖原病、重症複合免疫不全症、肝紫斑病(ミオチューブラーミオパチー)、一過性骨髄異常増殖症など)を含めて様々な疾患に対応できる体制が整っております。肝移植の周術期管理においては、移植外科医のみならず、移植コーディネーター、薬剤師、感染制御部、集中治療医、腎臓内科医、精神科医と日々カンファレンスを行っており、専門性の高い診療を行っております。血管・胆管合併症においては経験豊富な放射線科医と消化器内科医(小児に対する小腸鏡下治療は本邦最多の症例数)がおり、迅速かつ適切に治療を行う体制が整っております。また生体ドナーに関しては、適応評価、手術、術後管理から永続的な外来管理まで当施設が責任を持って行っており、2022年4月から腹腔鏡下ドナー手術を開始しましたが(3例)、整容性を含め経過良好です。

移行期医療が注目される昨今、成人胆道閉鎖症の患者さんに肝移植が必要となっております。当院では大学病院附属の子ども医療センターである点においても成人移行期の患者様もシームレス、かつ永続的に管理を行っていくことができます。また、移植後の成人移行期の患者様においても様々な問題(服薬アドヒアランス、就職活動、妊娠・出産など)が起こり得ますが、当院は通院患者(約450名)の30%以上が18才を超えてきており、隔年で開催している患者会を通じて交流を深めており、患者同士で悩みを分かち合い、解決できる環境が整っています。小児肝移植医療は移植手術だけではなく、生涯に渡って診療を続けなければいけません。自治医科大学附属病院はそのような診療ができる数少ない施設であると自負しております。さらに、長期滞在用の施設(ドナルド・マクドナルド・ハウス とちぎ、構内住宅)や院内学級もありますので、遠方の患者様においても受け入れの体制が整っています。

これまでの当院のデータや具体的な受診方法に関して提示させて頂きました(詳しくは当科ホームページ(<http://www.jichi.ac.jp/transplant/index.html>)を参照してください)。

当院への受診を希望する際の参考にして頂ければと思います。

2024年4月

自治医科大学附属病院移植外科科長 佐久間康成

成人肝移植責任者 大西康晴

小児肝移植責任者 眞田幸弘

ドナー責任者 脇屋太一

自治医科大学附属病院移植外科の歴史

2001年4月、「小児外科・移植外科」設立

2001年5月、小児生体部分肝移植開始

2004年1月、「移植外科」独立

2007年2月、生体部分肝移植 100 例目実施

2008年4月、レシピエント移植コーディネーター専任

2008年10月、新生児に対する生体部分肝移植実施

2010年8月、脳死肝移植施設(18才未満)認定

2011年5月、生体部分肝移植 200 例目実施

2014年3月、小児脳死分割肝移植実施

2014年6月、小児生体ドミノ肝移植実施

2016年1月、生体ドナー手術・管理移行(消化器・一般外科より)

2017年1月、成人生体部分肝移植開始

2017年10月、生体部分肝移植 300 例目実施

2019年4月、「消化器一般移植外科」設立

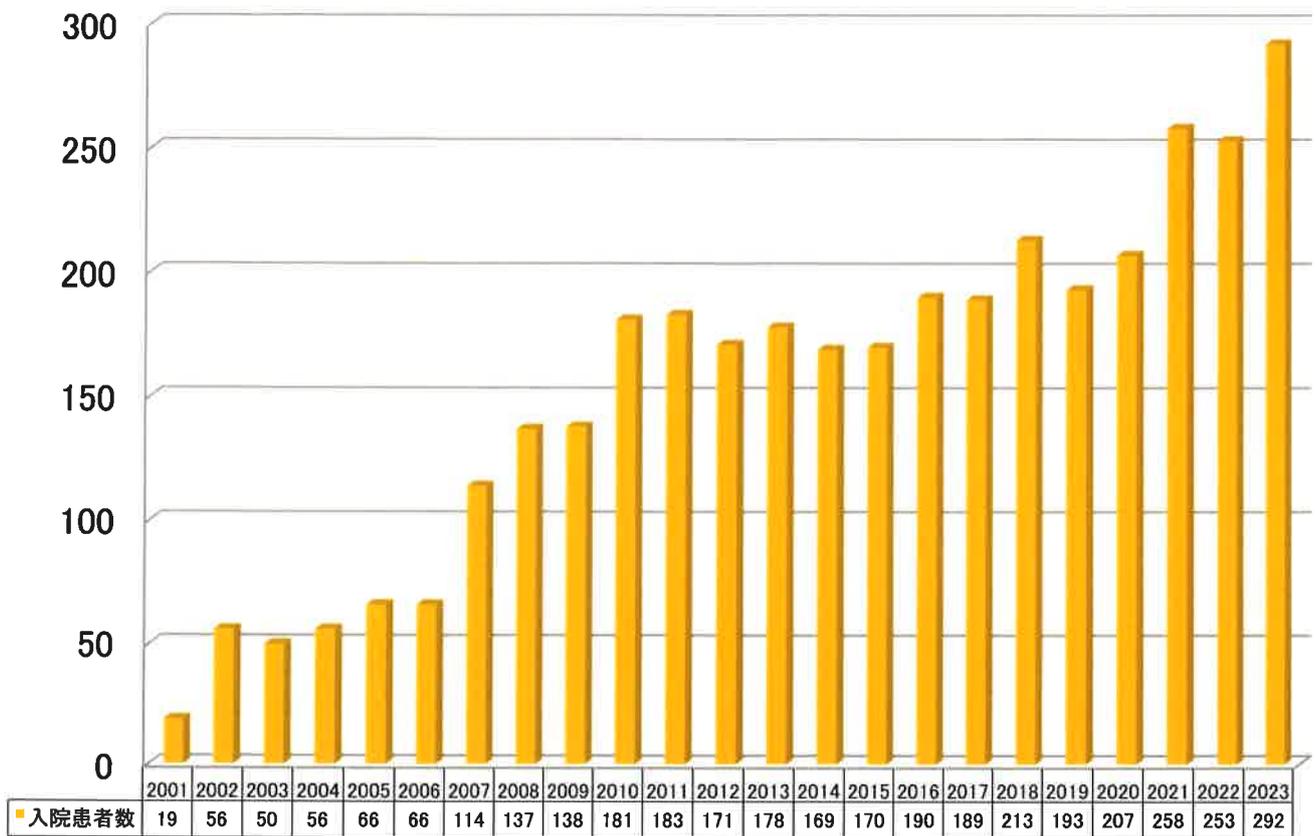
2022年10月、成人脳死肝移植施設認定

2023年9月、成人脳死肝移植実施

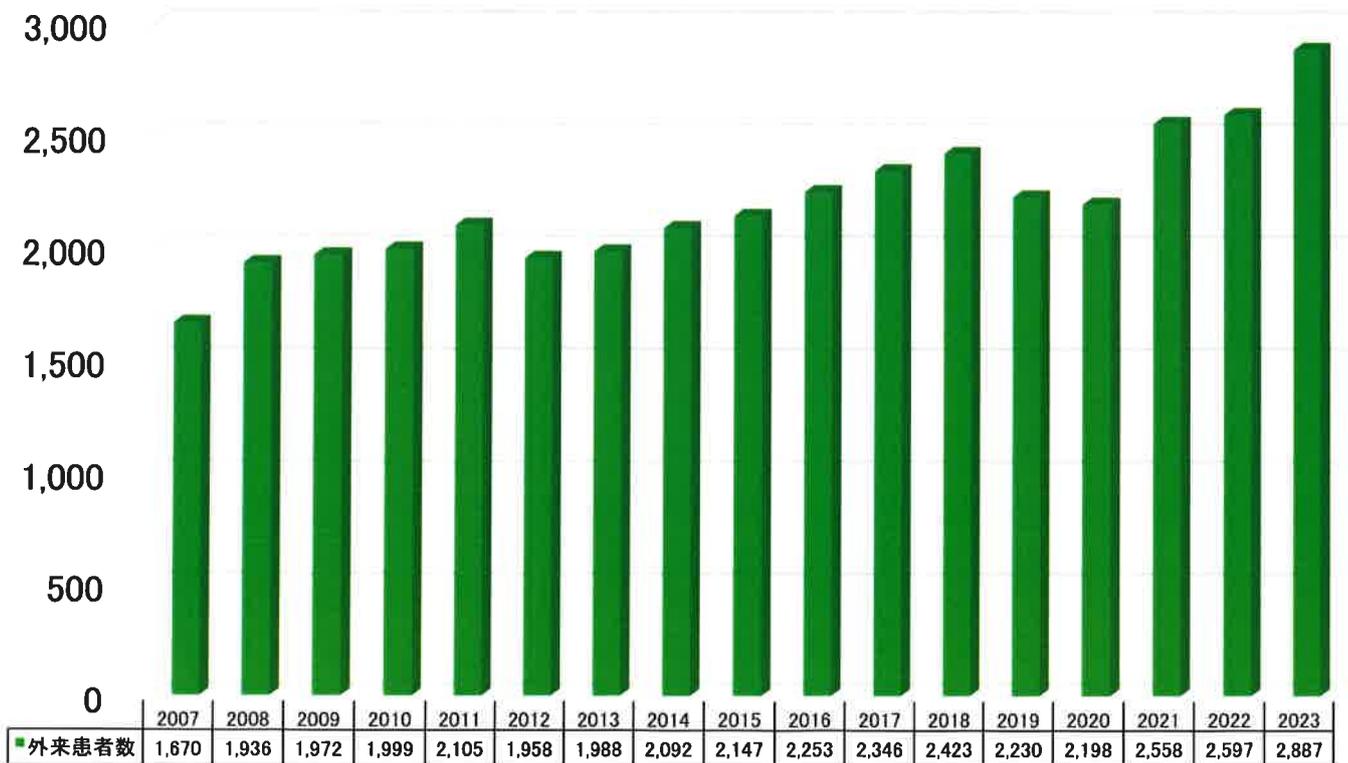
2024年2月、生体部分肝移植 400 例目実施

診療実績

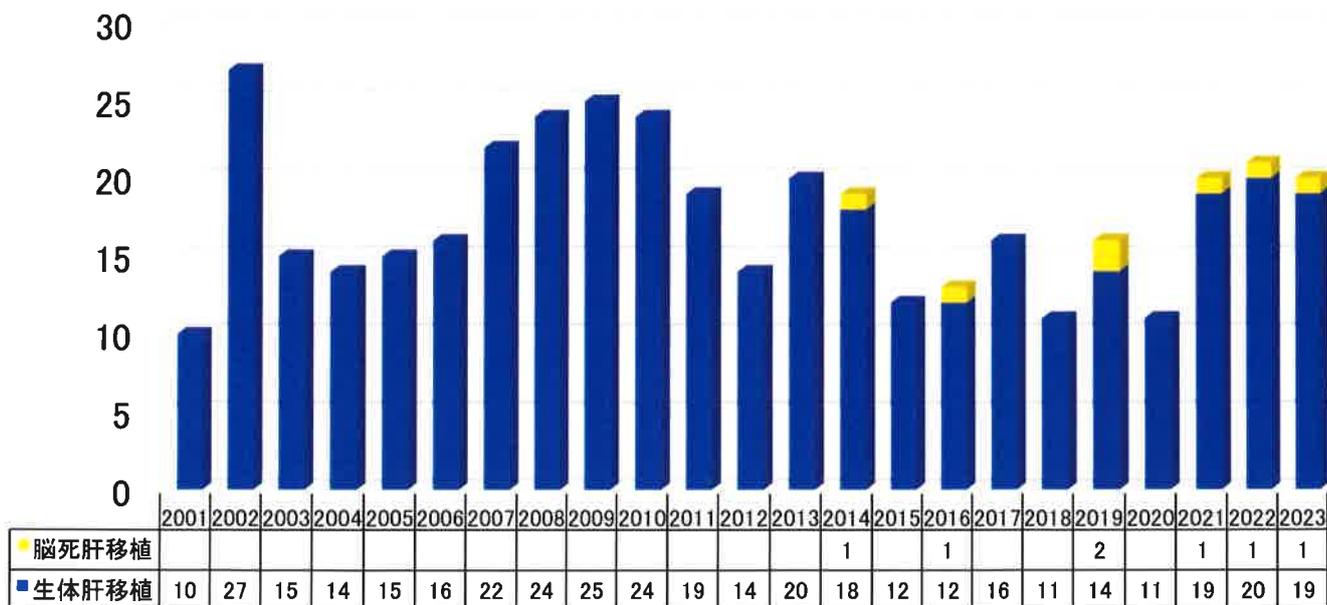
① 入院患者数(2001-2023年:全 3549 例)



外来患者数(2007-2023年:全 37359 例)



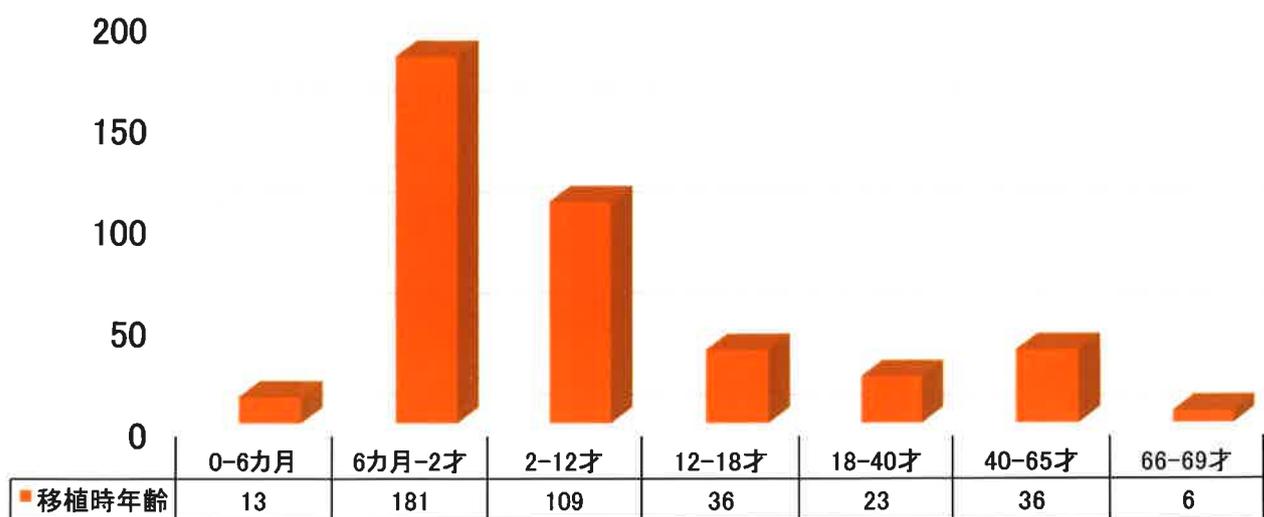
② 肝移植件数(2001-2023年:全404例)



原疾患(2001-2023年:全404例)

胆汁うっ滞性疾患 276例	急性肝不全 10例
胆道閉鎖症 243例(成人10例)	劇症肝炎(原因不明) 6例
アラジール症候群 15例	若年性関節リウマチ 1例
原発性胆汁性胆管炎 7例	急性巨核芽球性白血病 1例
原発性硬化性胆管炎 6例	de novo B型肝炎 1例
進行性家族性肝内胆汁うっ滞症 2例	一過性骨髄異常増殖症 1例
腸管不全合併肝障害 1例	
重症複合免疫不全症 1例	代謝性疾患 50例(急性肝不全9例)
特発性肝内胆管減少症 1例	オルニチントランスカルバミラーゼ欠損症 23例
	ウィルソン病 8例(急性肝不全3例)
肝細胞性疾患 31例	新生児ヘモクロマトーシス 5例(急性肝不全5例)
非アルコール性脂肪肝炎 17例(肝細胞癌5例)	メープルシロップ尿症 4例
アルコール性肝炎 6例(肝細胞癌1例)	メチルマロン酸血症 4例
自己免疫性肝炎 4例	シトルリン血症 2例
C型肝炎 4例(肝細胞癌2例)	嚢胞性線維症 1例
	カルバミルリンサン合成酵素欠損症 1例
血管性疾患 6例	ニーマンピック病C型 1例(急性肝不全1例)
先天性門脈体循環シャント 5例	糖原病Ia型 1例
肝外門脈閉塞症 1例	
	その他 23例
腫瘍性疾患 8例	グラフト不全 20例
肝芽腫 6例	先天性肝線維症 3例
肝血管内皮腫 1例	
肝紫斑病 1例	

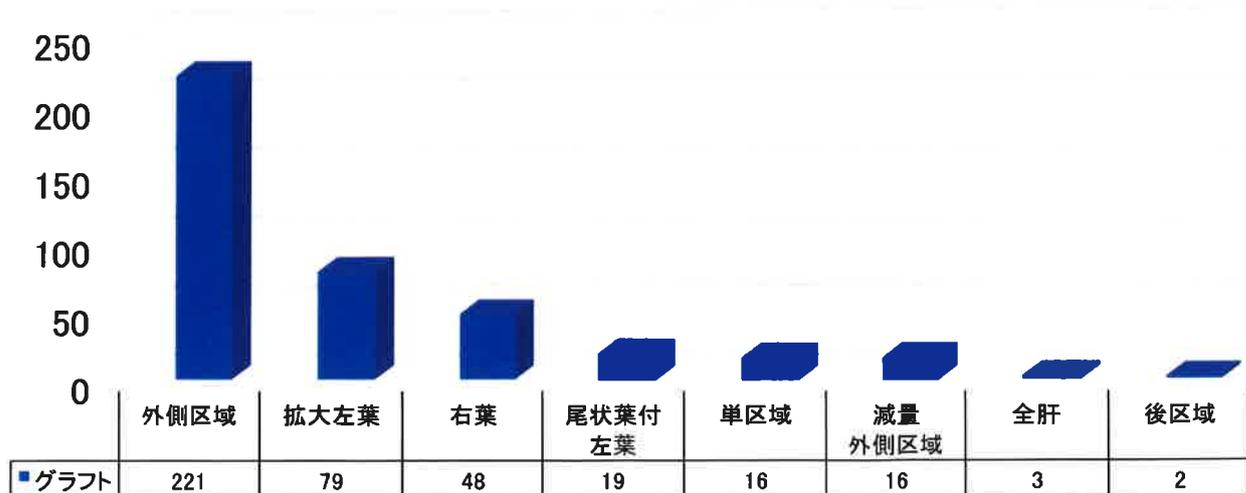
移植時レシピエント年齢(2001-2023年:全404例)



ドナー関係(2001-2023年:全404例)

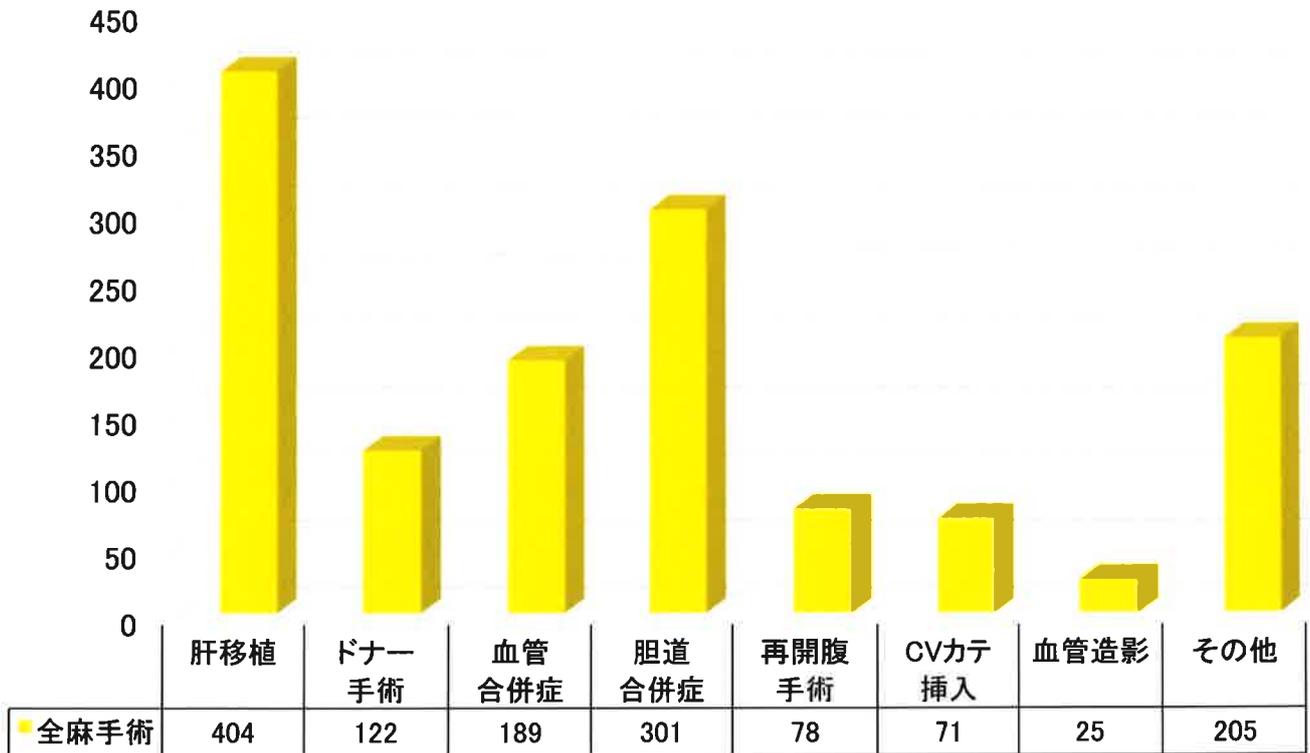


グラフトタイプ(2001-2023年:全404例)

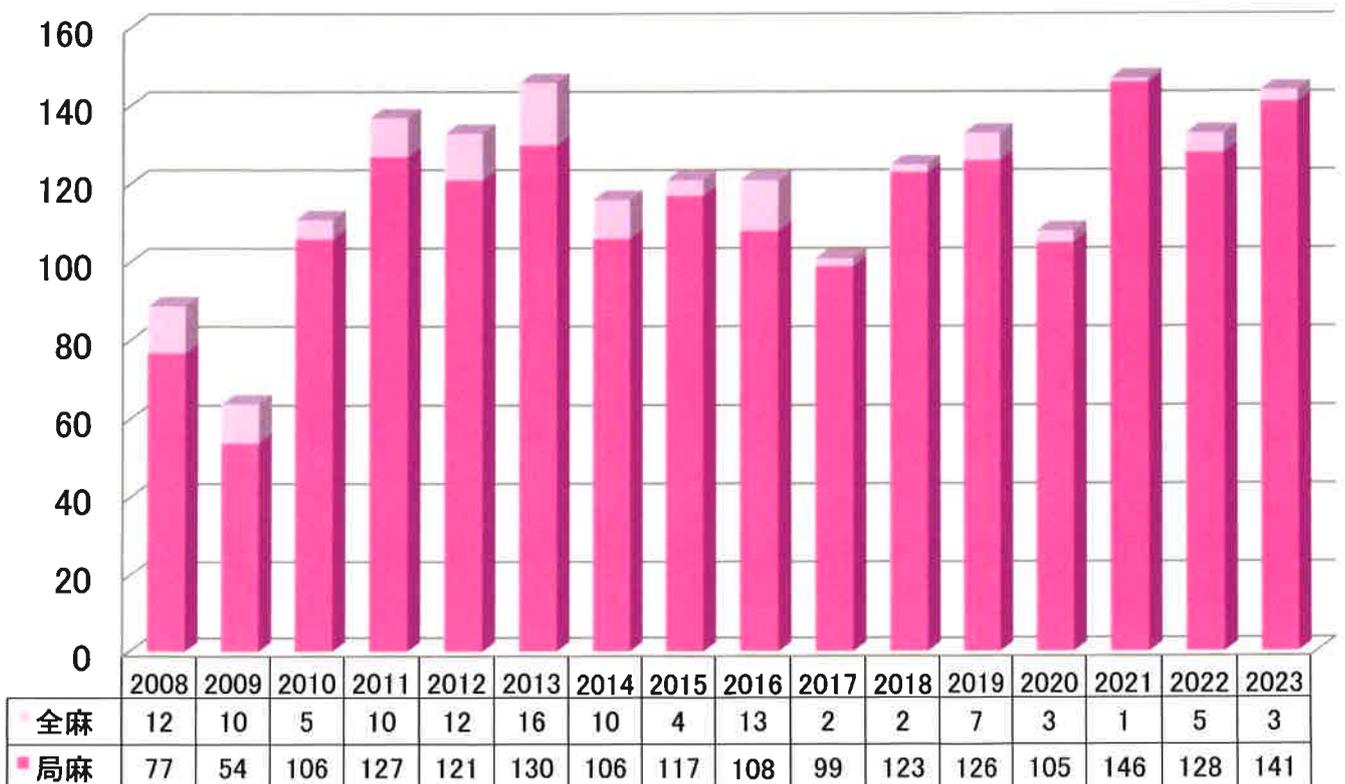


③ 手術・検査件数(2001-2023年:全404例)

全身麻酔手術件数(2001-2023年:全1395例)

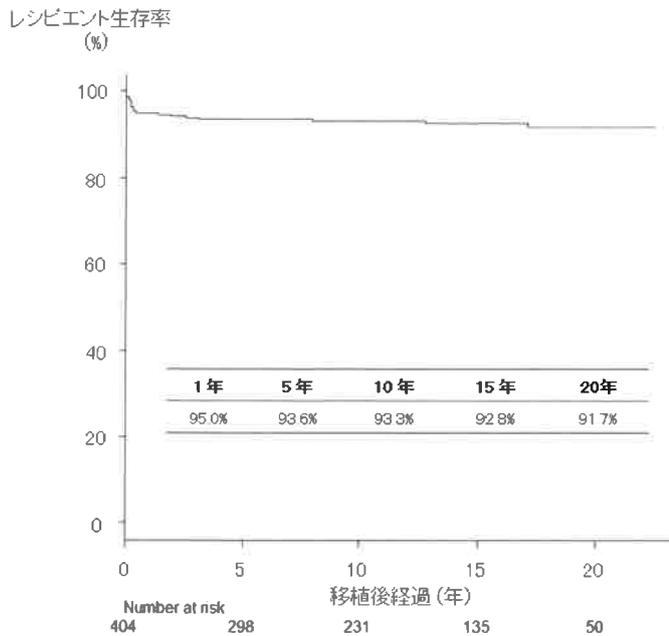


肝生検件数(2008-2023年:全1563例)

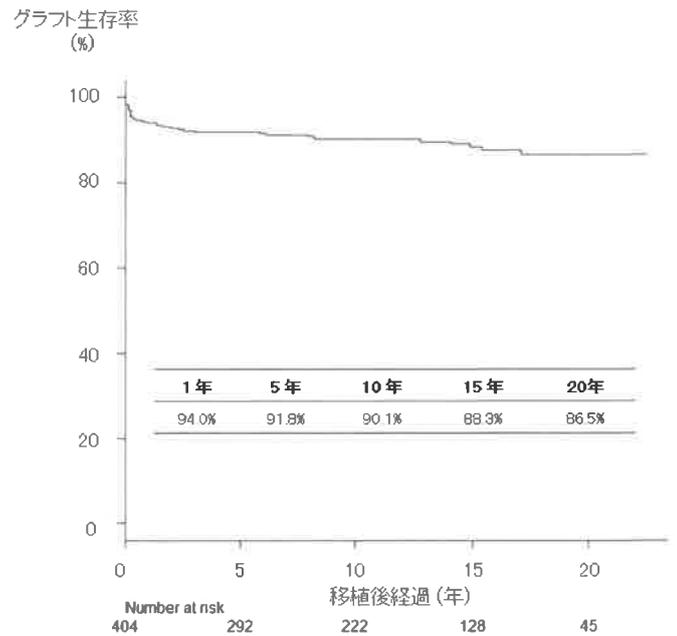


④ 肝移植成績(2001-2023年:全404例)

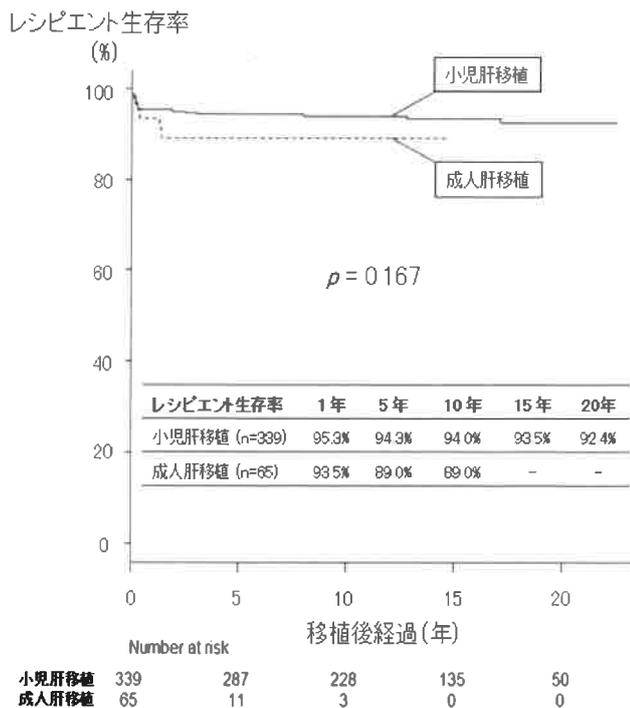
レシピエント生存率(n=404)



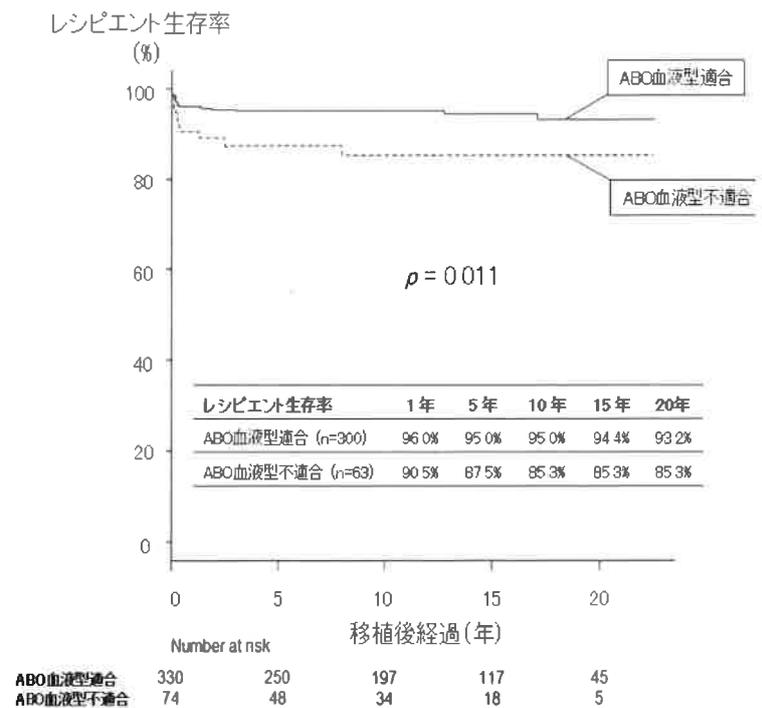
グラフト生存率(n=404)



年齢別肝移植成績

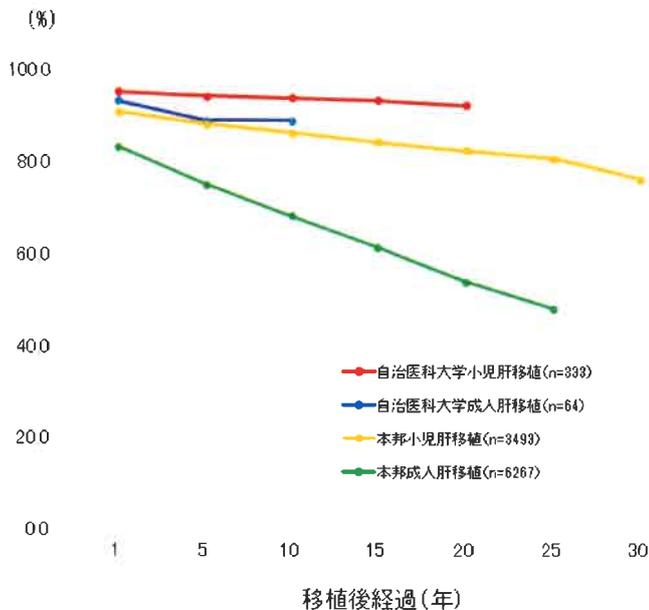


血液型タイプ別肝移植成績



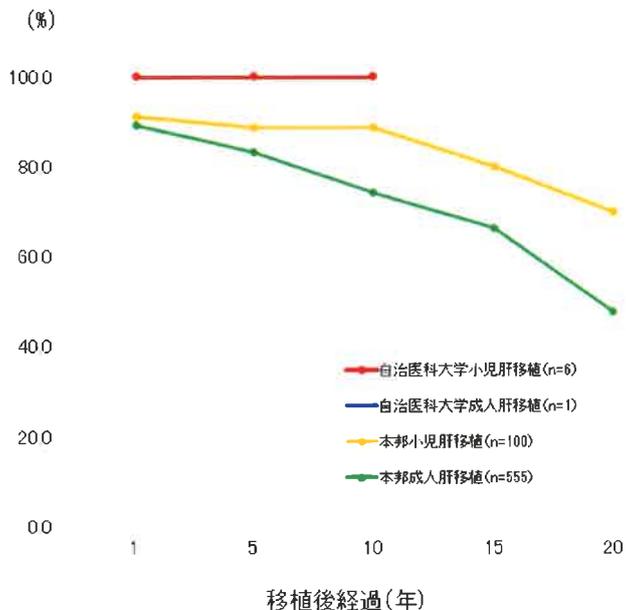
*** 本邦(1964-2022年)の肝移植成績との比較(当院は2023年まで)**

生体肝移植



レシビエント生存率	1年	5年	10年	15年	20年	25年	30年
自治医大小児(n=333)	95.2%	94.3%	93.9%	93.4%	92.3%	-	-
自治医大成人(n=64)	93.4%	88.9%	88.9%	-	-	-	-
本邦小児(n=3709)	90.8%	88.2%	86.3%	84.3%	82.4%	80.6%	76.1%
本邦成人(n=6746)	83.3%	75.0%	68.2%	61.3%	53.9%	48.0%	-

脳死肝移植



レシビエント生存率	1年	5年	10年	15年	20年
自治医大小児(n=6)	100.0%	100.0%	-	-	-
自治医大成人(n=1)	100.0%	-	-	-	-
本邦小児(n=133)	91.0%	89.5%	88.5%	79.7%	69.7%
本邦成人(n=668)	89.1%	83.0%	74.2%	66.3%	47.7%

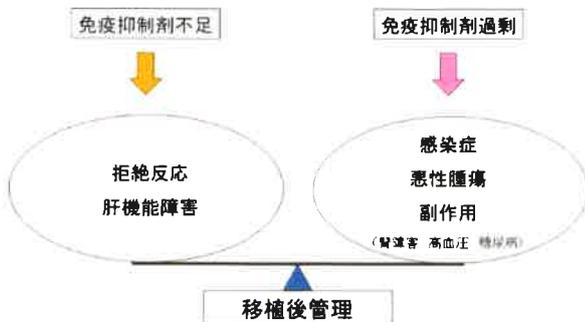
⑤ 肝移植後合併症(2001-2023年:全 404例)

	total n=404	小児全体 n=339	小児生体 n=333	小児脳死 n=6	成人全体 n=65	成人生体 n=64	成人脳死 n=1
外科的合併症							
肝静脈合併症	31 7.7%	27 8.0%	25 7.5%	2 33.3%	4 6.2%	4 6.3%	0 0.0%
門脈合併症	57 14.1%	55 16.2%	53 15.9%	2 33.3%	2 3.1%	2 3.1%	0 0.0%
肝動脈合併症	25 6.2%	22 6.5%	20 6.0%	2 33.3%	3 4.6%	3 4.7%	0 0.0%
胆管合併症	102 25.2%	79 23.0%	78 23.1%	1 16.7%	23 35.4%	23 35.9%	0 0.0%
胆管狭窄	74 18.3%	65 19.2%	64 19.2%	1 16.7%	9 13.8%	9 14.1%	0 0.0%
吻合部	64 15.8%	57 16.8%	56 16.8%	1 16.7%	7 10.8%	7 10.9%	0 0.0%
非吻合部	19 4.7%	16 4.7%	16 4.8%	0 0.0%	3 4.6%	3 4.7%	0 0.0%
吻合部+非吻合部	9 2.2%	8 2.4%	8 2.4%	0 0.0%	1 1.5%	1 1.6%	0 0.0%
胆汁瘻	34 8.4%	18 4.1%	18 5.4%	0 0.0%	16 24.6%	16 25.0%	0 0.0%
胆管狭窄+胆汁瘻	6 1.5%	4 1.2%	4 1.2%	0 0.0%	2 3.1%	2 3.1%	0 0.0%
腹腔内出血	19 4.7%	11 3.2%	10 3.0%	1 16.7%	8 12.3%	8 12.5%	0 0.0%
腹膜炎							
腹腔内膿瘍	16 4.0%	14 4.1%	13 3.9%	1 16.7%	2 3.1%	2 3.1%	0 0.0%
消化管穿孔	16 4.0%	11 3.2%	11 3.3%	0 0.0%	5 7.7%	5 7.8%	0 0.0%
腸閉塞							
早期(≤術後90日)	4 1.0%	4 1.2%	4 1.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
晚期(>術後90日)	12 3.0%	11 3.2%	11 3.3%	0 0.0%	1 1.5%	1 1.6%	0 0.0%
腹壁癒痕ヘルニア	7 1.7%	7 2.1%	6 1.8%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
再開腹手術率							
早期(≤術後90日)	60 14.9%	49 14.5%	45 13.5%	4 66.7%	11 16.9%	11 17.2%	0 0.0%
晚期(>術後90日)	29 7.2%	26 7.7%	25 7.5%	1 16.7%	3 4.6%	3 4.7%	0 0.0%
内科的合併症							
急性拒絶反応	172 42.6%	140 41.3%	136 40.8%	4 66.7%	32 49.2%	32 50.0%	0 0.0%
難治性拒絶反応	45 11.1%	35 10.3%	34 10.2%	1 16.7%	10 15.4%	10 15.6%	0 0.0%
CMV感染症	172 42.6%	134 39.5%	129 38.7%	5 83.3%	38 58.5%	37 57.8%	1 100.0%
PTLD	7 1.7%	7 2.1%	7 2.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
ニューモシスチス肺炎	5 1.2%	4 1.2%	4 1.2%	0 0.0%	1 1.5%	1 1.6%	0 0.0%
血球貪食症候群	4 1.0%	3 0.9%	3 0.9%	0 0.0%	1 1.5%	1 1.6%	0 0.0%

肝移植後長期経過した患者様(特に青年～成人期)に関して

・肝移植後は、生涯の免疫抑制剤内服と外来通院が必要です。

移植後1年間は4週間毎、2年までは6週間毎、5年までは8週間毎、それ以降は8-12週間毎に1回の通院が目安です。生涯の免疫抑制剤の内服と外来通院は必要ですが、肝移植後であっても、移植していない方と同じ生活ができます。**成人期になっても当科で診療を継続していくことが可能です。**



・障害者雇用促進法により障害者雇用枠で企業に就職も可能です。

患者会で就職相談という形で情報交換を行う企画があります。18才以上の当科通院中の患者様の約60%は就職、約35%は学生で頑張っています。患者会は2年に1回行っており、これまで10回の患者会を行ってきました(次回2024年予定)。2023年度は筑波山で屋外交流会を行いました。毎回100-200名の患者・家族の参加があり、大変好評です。



・肝移植後の医療費助成も充実しており、安心です。

小児: 医療費助成制度(自立支援医療(育成医療)、小児慢性特定疾病)
身体障害者手帳1級(免疫抑制剤内服症例のみ)

成人: 医療費助成制度(自立支援医療(更生医療)、特定疾患医療費助成)
身体障害者手帳1級

・免疫抑制剤を内服していても妊娠・出産は可能です。

移植後も計画的であれば安全に妊娠・出産ができます。移植外科医がいる周産期センターで妊娠管理を行うことが一般的です。当科通院中の患者様14人に20回の妊娠・出産歴があります(2024年4月現在)。

青年～成人期に起こりうる問題に関しても、長期患者さんの治療実績があり、大学病院である当科であればすべてにおいて対応が可能です。どうぞご安心ください。

胆道閉鎖症患者さんとそのご家族の皆様へ

「胆道閉鎖症外来」のお知らせ

自治医科大学では2001年5月より肝移植を開始し、2023年12月までに333例の末期肝硬変や肝不全の子どもたちに生体肝移植を行ってきました。このうち胆道閉鎖症の患者さんは233例(70%)を占めます。また、50例以上の自己肝温存の胆道閉鎖症患者さんをフォローアップしています。当科における胆道閉鎖症患者さんの数は移植に関わらず日本有数となっております。

胆道閉鎖症は乳児期に肝不全にて肝移植が必要になる患者さんと、幼児期～成人期に代償性～非代償性肝硬変にて肝移植が必要になる患者さん、自己肝を温存できる患者さんに分けられます。胆道閉鎖症患者さんの20年自己肝生存率は45%とされていますが、今後も長期生存の患者さんが増えていくため、成人期に肝移植が必要になる患者さんが増えていくことが予想され、最近では青年期～成人期の患者さんの紹介が増えています(ここ数年2-3名/年の紹介、2023年12月現在まで10名の成人患者さんに生体肝移植施行)。また、成人期自己肝温存の患者さんにおける胆道癌の合併や成人疾患の併発などが問題になっています。一方で自己肝が温存できる患者さんの見極めも重要であります。このように胆道閉鎖症の患者さんは生涯に渡って高い専門性を持って診療を継続していく必要がありますが、多くの患者さんは小児施設で継続フォローされているのが現状です。小児疾患では現在トランジションが問題になっており、小児科・小児外科から消化器内科・消化器外科へのシームレスな移行が求められておりますが、青年期～成人期の胆道閉鎖症患者さんに関しても同様です。

自治医科大学では小児肝移植を開始後、2017年1月より成人肝移植を開始し、また、2022年10月より成人脳死肝移植施設に認定されました。これまでの小児肝移植の実績に加えて成人肝移植を網羅することができるようになったため、どの年代の胆道閉鎖症の患者さんにおいてもシームレスに診療できる体制が整いました。そこで2019年10月より、自治医科大学附属病院にて「胆道閉鎖症外来」を新設致しました。具体的には毎週月曜日14時からとちぎ子ども医療センターにて外来を行っています。

胆道閉鎖症患者さんとそのご家族の皆様におかれましては、消化器内科や消化器外科などの成人外来への移行を考えているまたはすすめられている場合や、将来的な肝移植を心配している、妊娠・出産を考えているなど、お困りのことがありましたらなんでも結構ですので、お気軽にご連絡、ご相談頂ければと思います。

2024年4月

自治医科大学附属病院移植外科科長 佐久間康成

成人肝移植責任者 大西康晴

小児肝移植責任者 眞田幸弘

ドナー責任者 脇屋太一

当科への連絡・受診の方法

①まず下記窓口にご連絡してください。

・移植外科医

電話：0285-58-7069(医局)または 0285-44-2111(代表)

FAX: 0285-58-7069(消化器一般移植外科)

眞田幸弘 E-mail: yuki371@jichi.ac.jp または 大西康晴 E-mail: onishiy@jichi.ac.jp

・移植コーディネーター

電話：0285-58-7465(移植コーディネーター直通外線)

FAX: 0285-44-5973(移植・再生医療センター)

吉田幸世 E-mail: ishokuco@jichi.ac.jp

②主治医の先生と相談の上、紹介状を書いてもらってください。

③移植コーディネーターを介して受診の日程調整を行って頂きます。

* 注意事項:

- ・当日は①お持ちの医療券、②母子手帳、③保険証、④お薬手帳を持参して頂きます。
 - ・ご両親以外に説明を聞きたいというご親族の方がいる場合は同伴して頂きます。
 - ・来院にあたり宿泊を予定している場合は、ボランティアハウスの御利用についてご案内致します。移植コーディネーターにご相談ください。
- ※遠方の患者様(20才未満)にはドナルド・マクドナルド・ハウス とちぎの御案内をしています。

ご不明な点、ご確認事項などありましたら、遠慮なく移植コーディネーターまでご連絡頂ければと思います。

自治医科大学附属病院移植外科
自治医科大学とちぎ子ども医療センター小児移植外科

肝移植患者様のための構内住宅貸出案内

移植手術を受けるご家族のために大学構内にある教職員住宅の一部を貸し出しています。

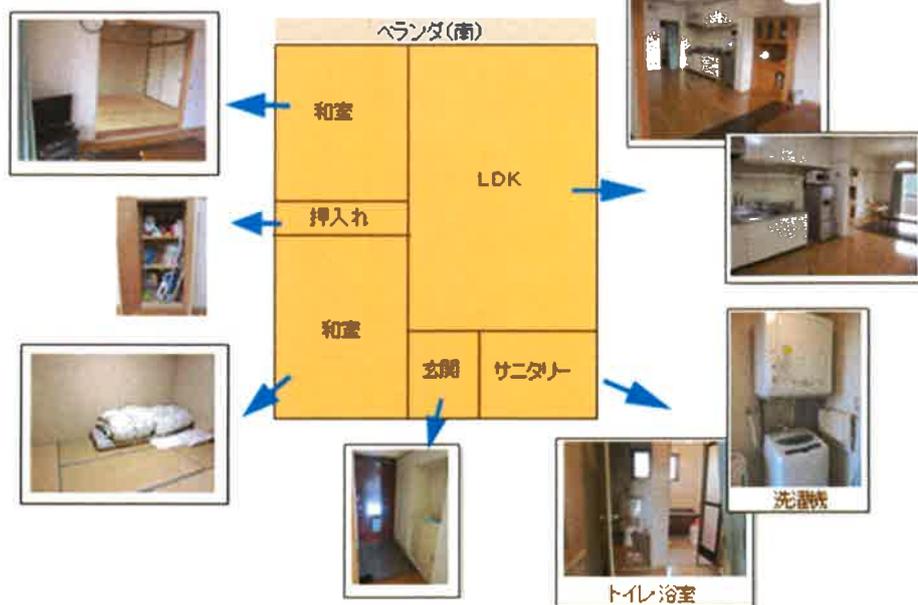
(2週間以上の長期利用が条件)

設備・備品

クーラー2台・コタツ(コタツ布団無)もしくはホットカーペット(部屋によって違い有)・テーブル・椅子・調理用具・テレビ・冷蔵庫・洗濯機・掃除機・ドライヤー・電子レンジ・炊飯器・ガステーブル・食器棚・食器一式・電気ポット・寝具各部屋2組・自転車各部屋1台 等

部屋見取り図

2LDK ※部屋により左右の配置が逆



料金

1泊 1,500円

(光熱水費・寝具料金含)

駐車場: 各部屋1台分有



自治医科大学
附属病院
移植外科

つなぐ医療
liver transplantation
One for all, All for one
Jichi Medical University Hospital
since 2001



公益財団法人
ドナルド・マクドナルド・ハウス・
チャリティーズ・ジャパン

とちぎハウス



利用方法

自治医科大学とちぎ子ども医療センター他に入院または
通院中の20歳未満の患者と付き添い家族が対象です。
※詳しくはハウスにご確認ください。

アクセス情報

[住所]

〒329-0434

栃木県下野市祇園2-36-3

利用料金

利用料 1,000円/1人/1日

リネン使用料 210円

[連絡先]

TEL : 0285-58-7551

FAX : 0285-44-4154

ハウス内のご紹介



エントランス



リビング



ダイニング



キッチン



ベッドルーム



コンピュータールーム



感謝の樹



プレイルーム

その他

下記のものはハウスに常備しています。

- ・ドライヤー
- ・洗濯洗剤
- ・シャンプー、リンス、ハンドソープ（数に限り有り）

お問い合わせ 0285-58-7551